

いのちとくらしをまもる  
防災減災

令和6年8月14日15時30分  
地震火山部

令和6年8月16時43分頃の日向灘の地震について（第7報）  
及び南海トラフ地震関連解説情報（第6号）について

令和6年8月8日16時43分頃の日向灘の地震について、地震の概要や留意事項をお知らせします。

また、14日15時30分に「南海トラフ地震関連解説情報（第6号）」を発表しました。南海トラフ沿いの地震活動状況等についてお知らせします。

詳細は別添資料をご覧ください。

本件に関する問い合わせ先

（令和6年8月8日16時43分頃の日向灘の地震について）

地震火山部 地震津波監視課

電話 03-6758-3900（内線 5132）

（南海トラフ地震関連解説情報（第6号）について）

地震火山部 地震火山技術・調査課

電話 03-6758-3900（内線 5244）

# 防災上の留意事項と今後の見通し

（8月14日15時30分現在）

## （防災上の留意事項）

- 摆れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっていますので、今後の地震活動や降雨の状況に十分注意し、やむを得ない事情が無い限り危険な場所に立ち入らないなど身の安全を図るよう心がけてください。

## （今後の見通し）

- 過去の事例では、大地震発生後に当該地域で同程度の地震が発生した割合は1～2割あることから、揆れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度6弱程度の地震に注意してください。

## （南海トラフ地震との関連について）

- 今回の地震の発生により、気象庁は8月8日19時15分に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表しました。政府では、南海トラフ地震防災対策推進地域に対して、8日の地震発生から1週間、日頃からの地震への備えの再確認や、揆れを感じたら直ちに避難できる態勢をとるよう呼びかけています。引き続き、政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。
- なお、8日の地震の発生後、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すような地震活動や地殻変動は観測されていません。

# 地震の概要

検知時刻 (最初に地震を検知した時刻)	8月8日16時43分
発生時刻 (地震が発生した時刻)	8月8日16時42分
マグニチュード	7.1（暫定値）
発生場所	日向灘 深さ 31km（暫定値；速報値 深さ約 30kmから更新）
発震機構	西北西—東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、陸のプレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震
震度	【最大震度6弱】宮崎県の日南市(にちなんし)で震度6弱を観測したほか、東海地方から奄美群島にかけて震度5強～1を観測
地震活動の状況 8月14日12時00分現在	今回の地震発生後、震度1以上を観測した地震が23回発生（震度3：2回 震度2：5回 震度1：16回）
長周期地震動の観測状況	宮崎県南部山沿いで長周期地震動階級3を観測

## 日向灘の地震の最大震度別地震回数表

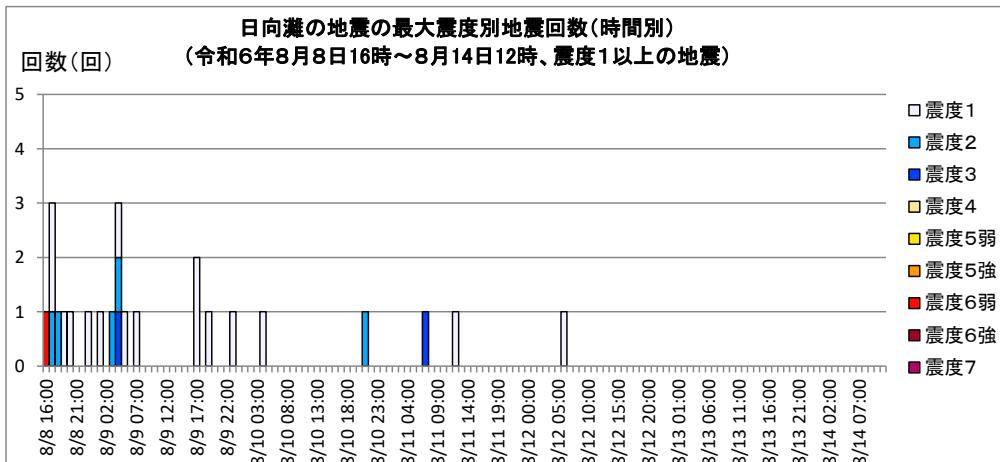
令和6年8月8日16時～8月14日12時、震度1以上

(注)掲載している値は速報のもので、その後の調査で変更する場合があります。

日別	最大震度別回数							震度1以上を観測した回数		備考	
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		
8/8 16時-24時	5	2	0	0	0	0	1	0	0	8	8
8/9 00時-24時	8	2	1	0	0	0	0	0	0	11	19
8/10 00時-24時	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	21
8/11 00時-24時	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	23
8/12 00時-24時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	24
8/13 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
8/14 00時-12時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
総計(8月8日～)	16	5	2	0	0	0	1	0	0	24	

※[8/11更新]精査により、8月9日の回数を変更しました。

時間別	最大震度別回数								震度1以上を観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	
8/13 00時-01時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
01時-02時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
02時-03時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
03時-04時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
04時-05時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
05時-06時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
06時-07時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
07時-08時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
08時-09時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
09時-10時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
10時-11時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
11時-12時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
12時-13時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
13時-14時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
14時-15時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
15時-16時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
16時-17時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
17時-18時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
18時-19時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
19時-20時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
20時-21時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
21時-22時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
22時-23時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
23時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
8/14 00時-01時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
01時-02時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
02時-03時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
03時-04時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
04時-05時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
05時-06時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
06時-07時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
07時-08時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
08時-09時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
09時-10時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
10時-11時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
11時-12時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
総計(8月8日～)	16	5	2	0	0	0	1	0	0	24	



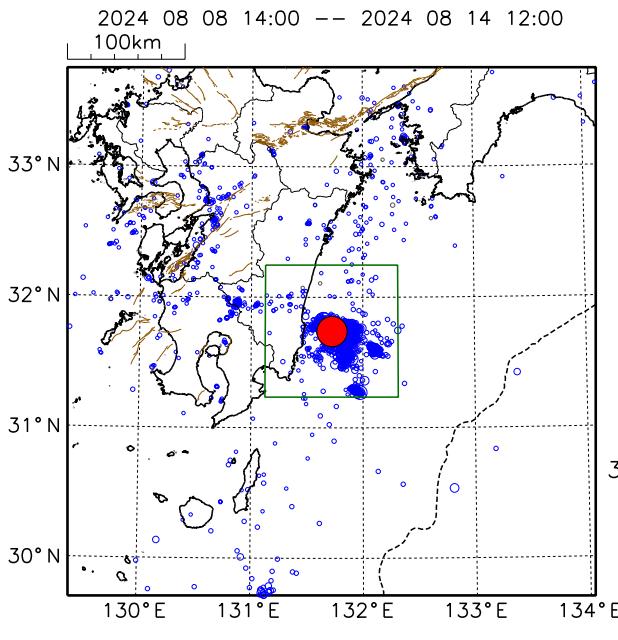
# 今回の地震活動

## 震央分布図（詳細図）

(8月14日現在)

### 震央分布図（広域図）

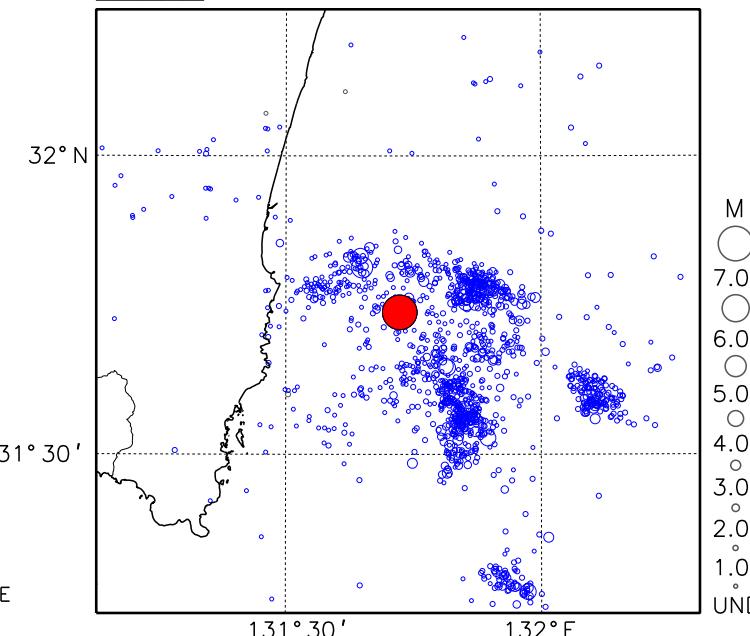
深さ0 -- 100km、 M 全て



震央分布図（広域図）の四角形領域内の震央分布図

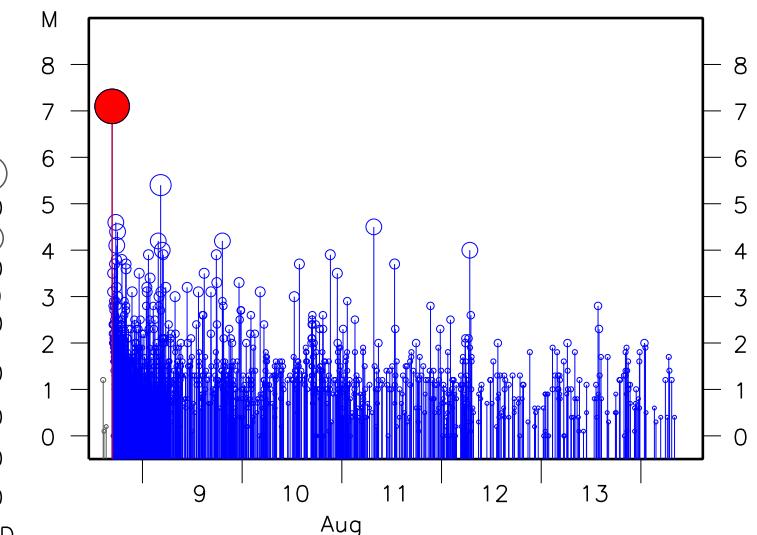
深さ0 -- 100km、 M 全て

2024 08 08 14:00 -- 2024 08 14 12:00  
20km



震央分布図（詳細図）の地震活動経過図

2024 08 08 14:00 -- 2024 08 14 12:00



この地震の震源付近では、その後も地震活動は活発な状態が続いています。

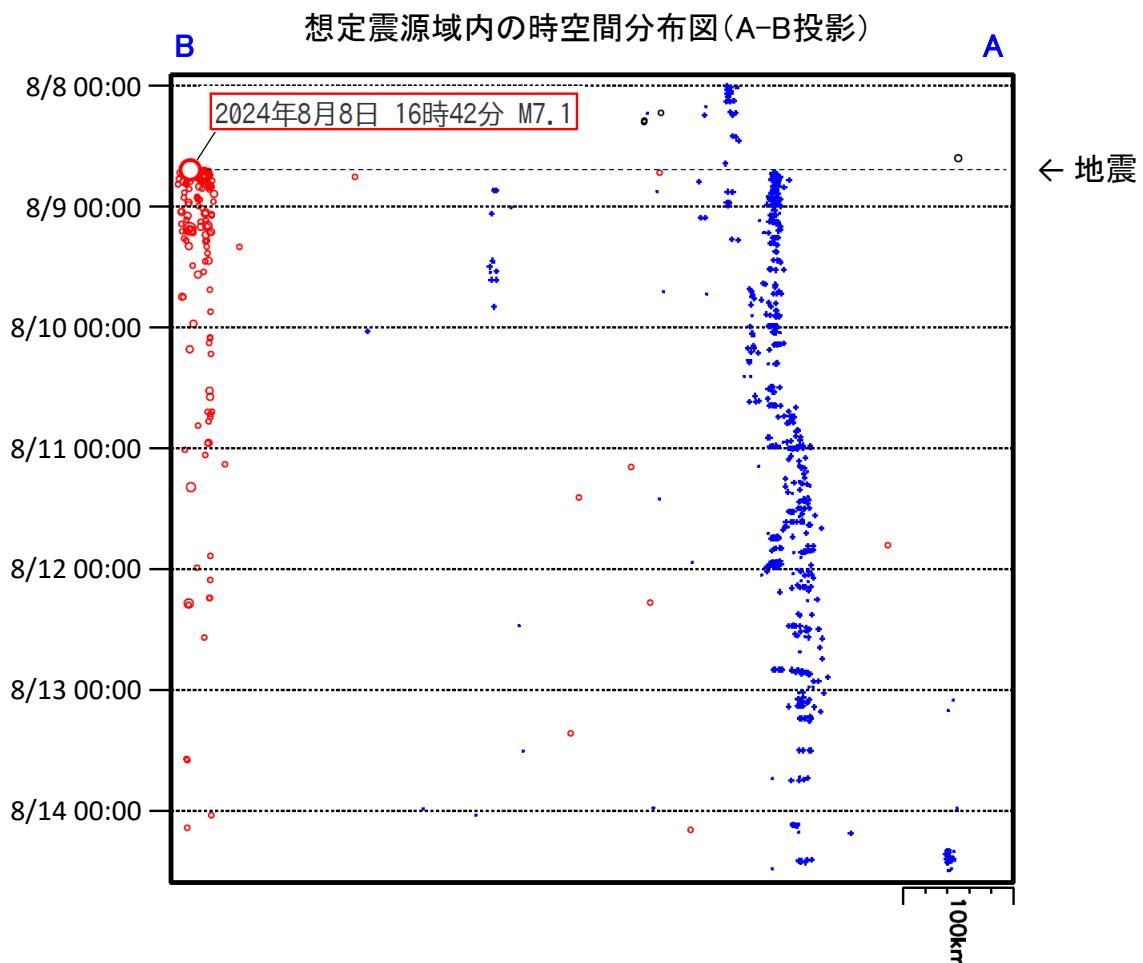
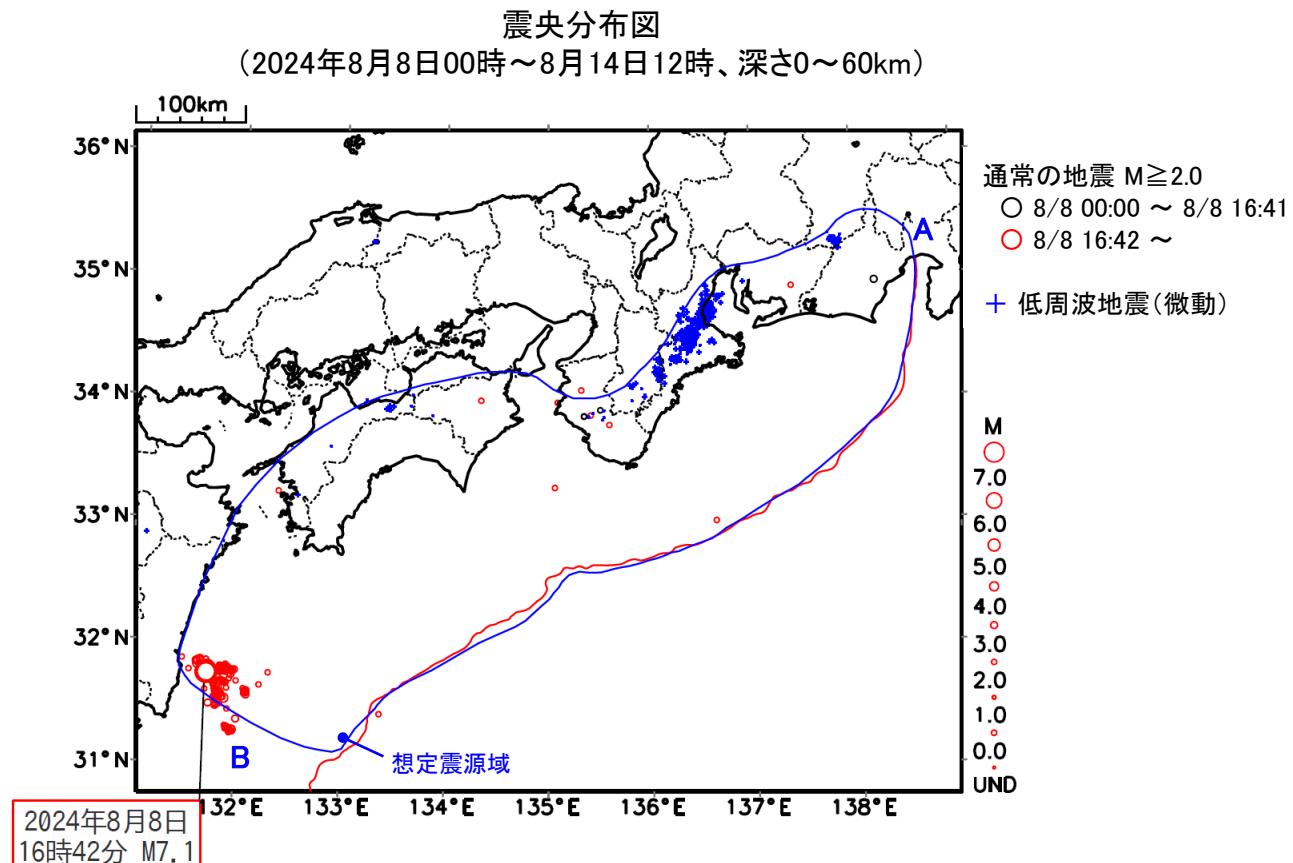
(震源の色について)赤色：今回の地震、青色：今回の地震より後に発生した地震、灰色：今回の地震より前に発生した地震

- 震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
- 震央分布図中の黒色の点線は、海溝軸を示す。

### <資料の利用上の留意点>

- 表示している震源は、速報値を含みます。
- 速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、誤差の大きなものが表示されることがあります。
- 個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握をご利用ください。

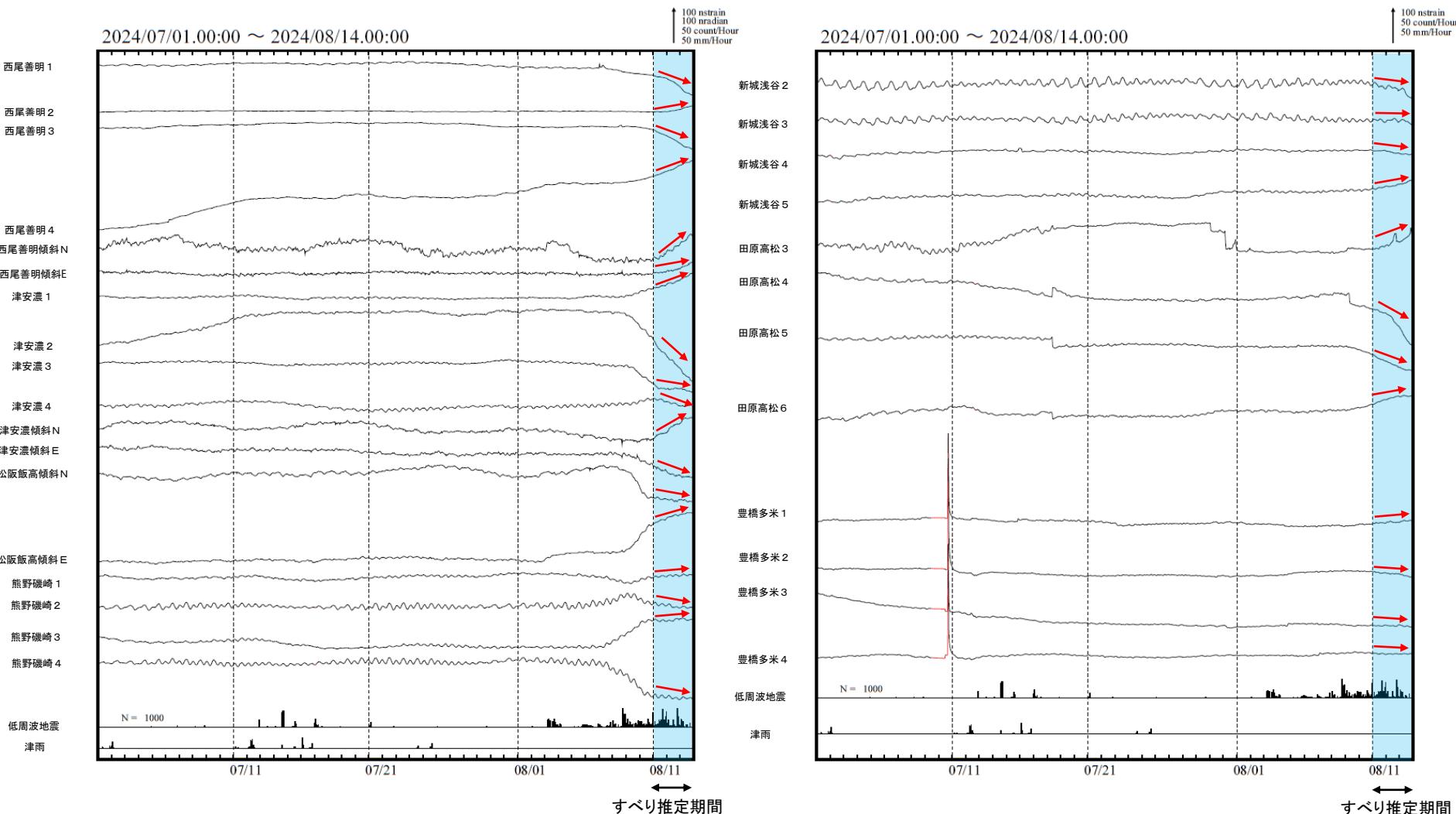
# 2024年8月8日日向灘の地震 想定震源域全体の地震活動



# 紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり(8月11日～)(速報)

紀伊半島及び伊勢湾の深部低周波地震(微動)活動に伴う変化が付近のひずみ計等で観測されていますが、これまでにも繰り返しみられている現象です。

## 愛知県から三重県で観測されたひずみ・傾斜変化

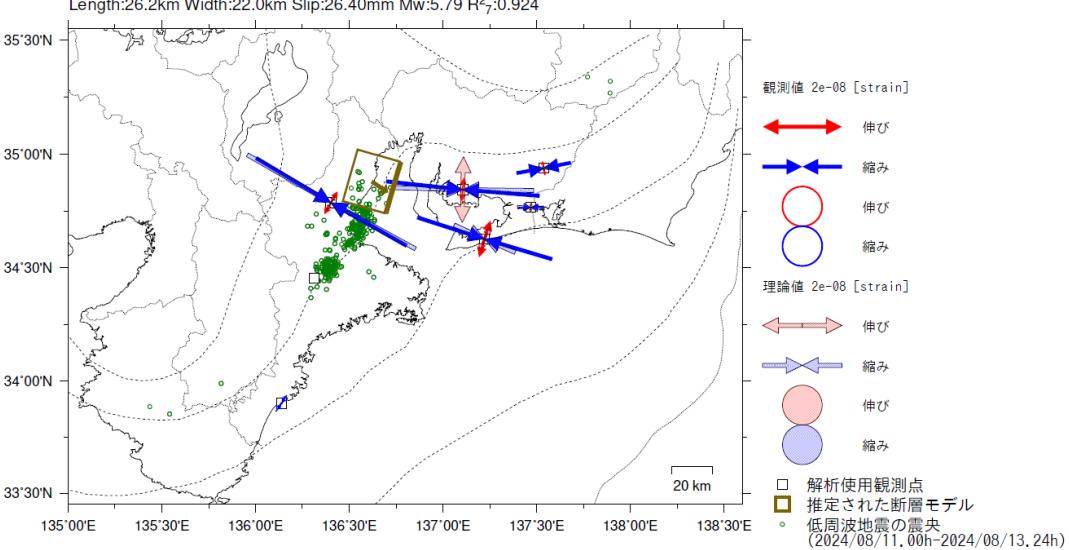
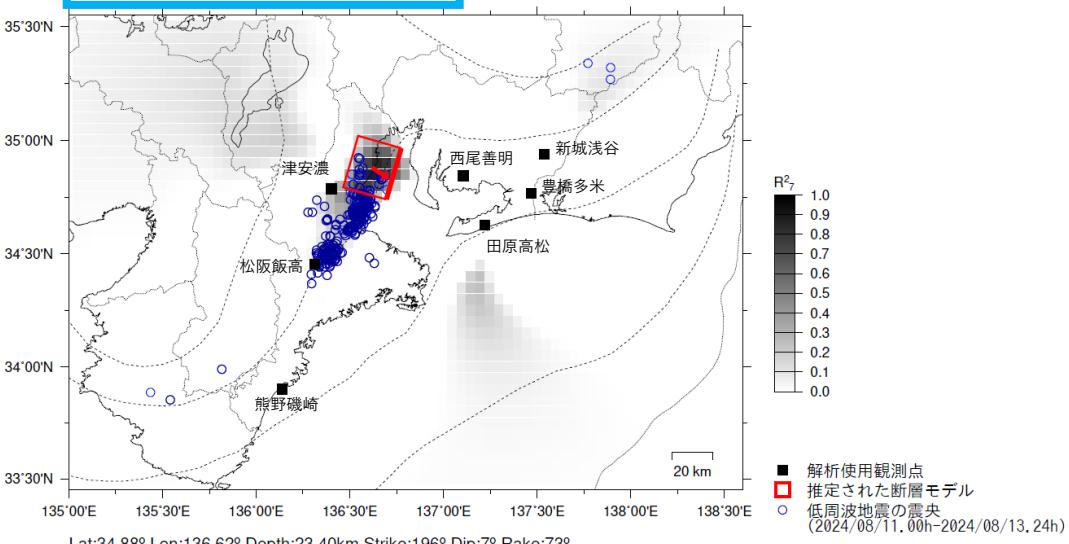


西尾善明、津安濃、松阪飯高及び熊野磯崎は産業技術総合研究所のひずみ・傾斜計である。

豊橋多米は産業技術総合研究所のひずみ計である。

# 紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり(8月11日～)(速報)

2024年8月11日0時～13日24時 Mw5.8



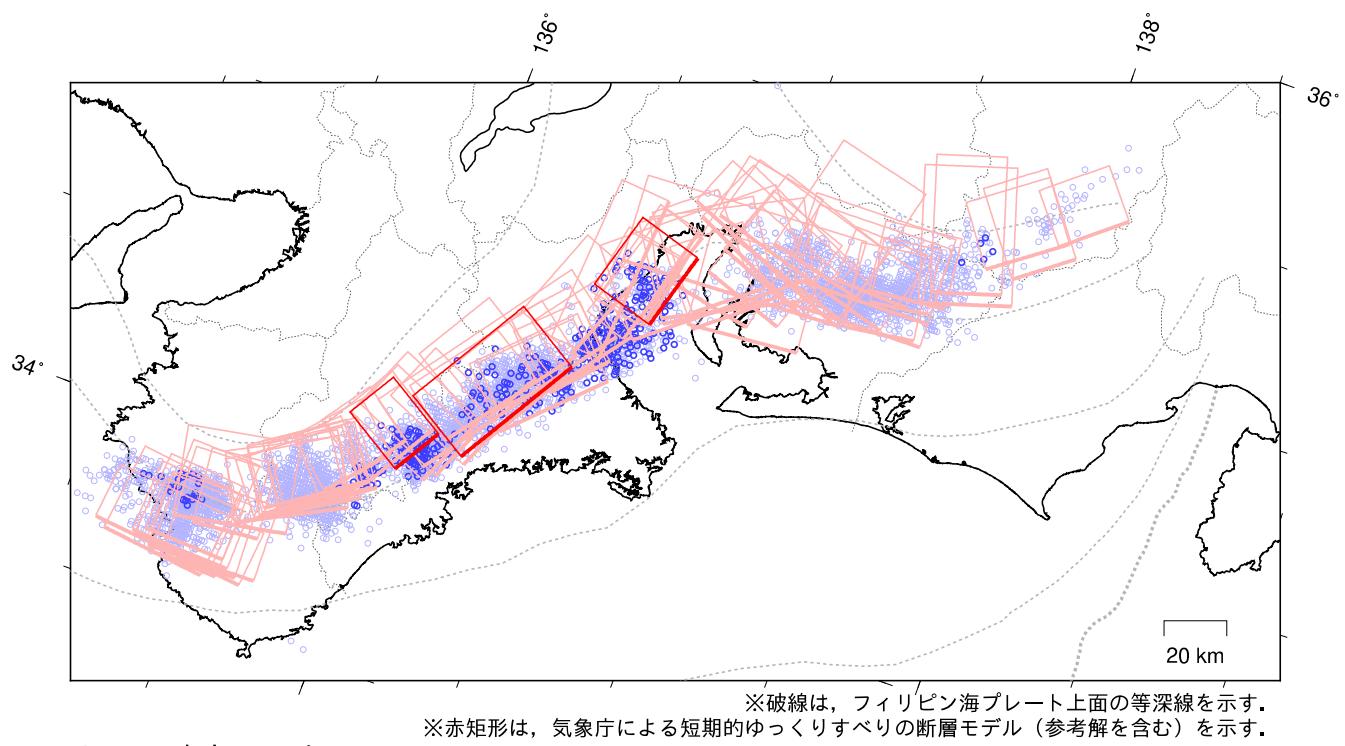
前図に示す観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、図の場所にすべり域が求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。  
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。  
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

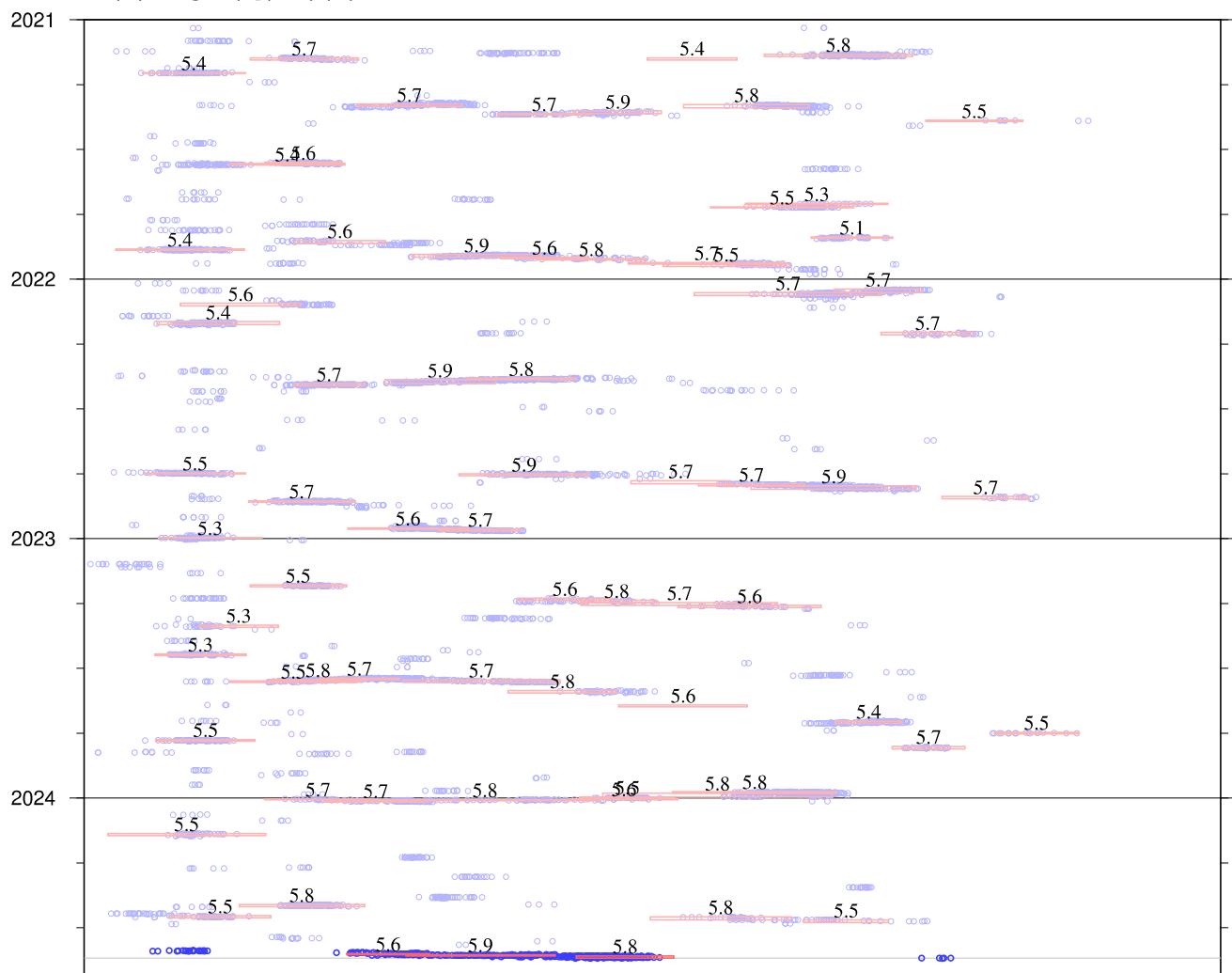
# 東海～紀伊半島 短期的ゆっくりすべりの活動状況

2021年1月1日～2024年8月14日

(2024年8月1日以降を濃く表示)



上図の時空間分布図



※短期的ゆっくりすべりの解析には、気象庁、産業技術総合研究所及び静岡県のデータを用いている。  
※赤矩形の上に表示されている数字は解析されたMwを示す。

※青丸はエンベロープ相関法（防災科学技術研究所、東京大学地震研究所との共同研究による成果）で得られた低周波微動の震央を示す。

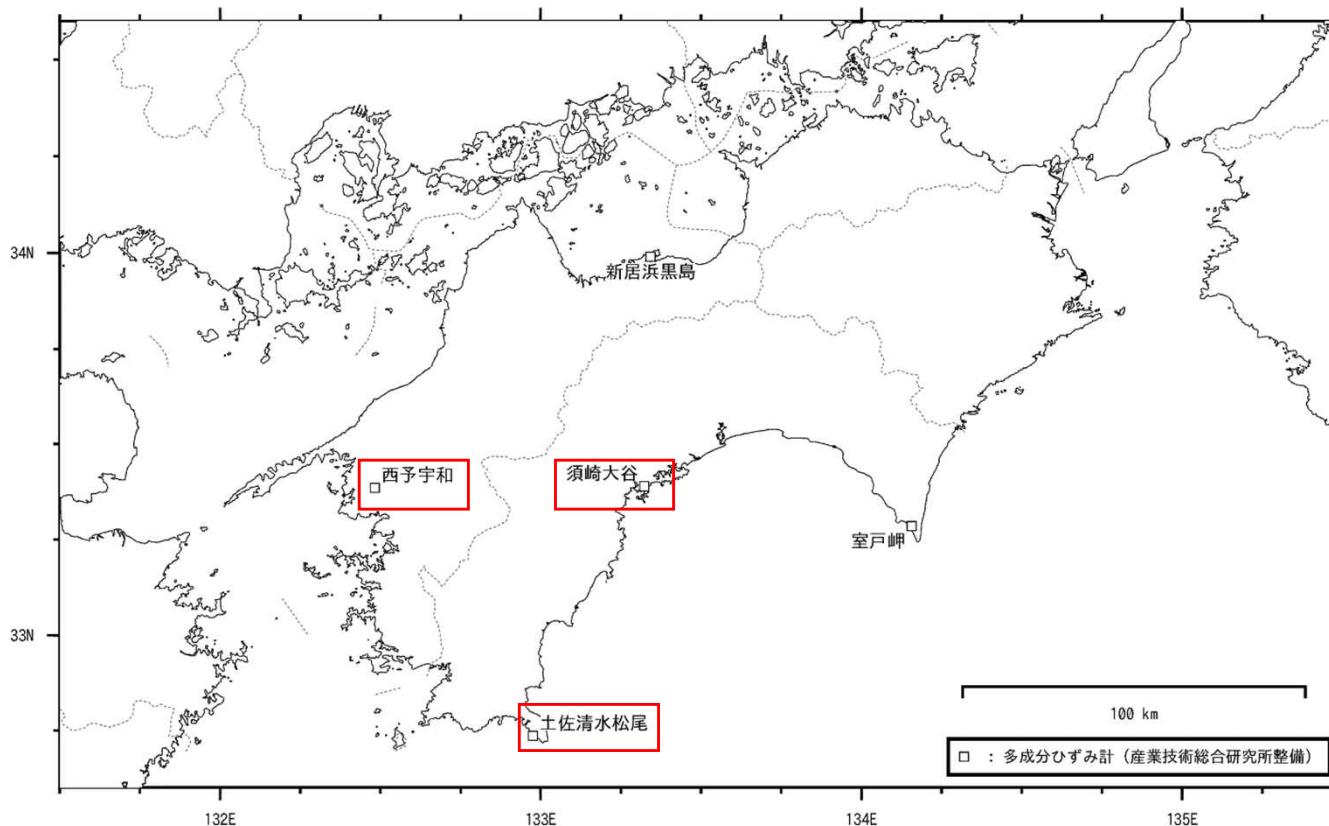
※時空間分布図中の灰色線は最新データ日を示す。

気象庁作成

# 8月14日12時00分現在のひずみ観測状況

8月8日16時43分頃の日向灘を震源とする地震(M7.1)に伴うステップ状の変化が観測されていますが、地震後に通常みられる変化以外は今のところ捉えられていません。

ひずみ観測点分布図



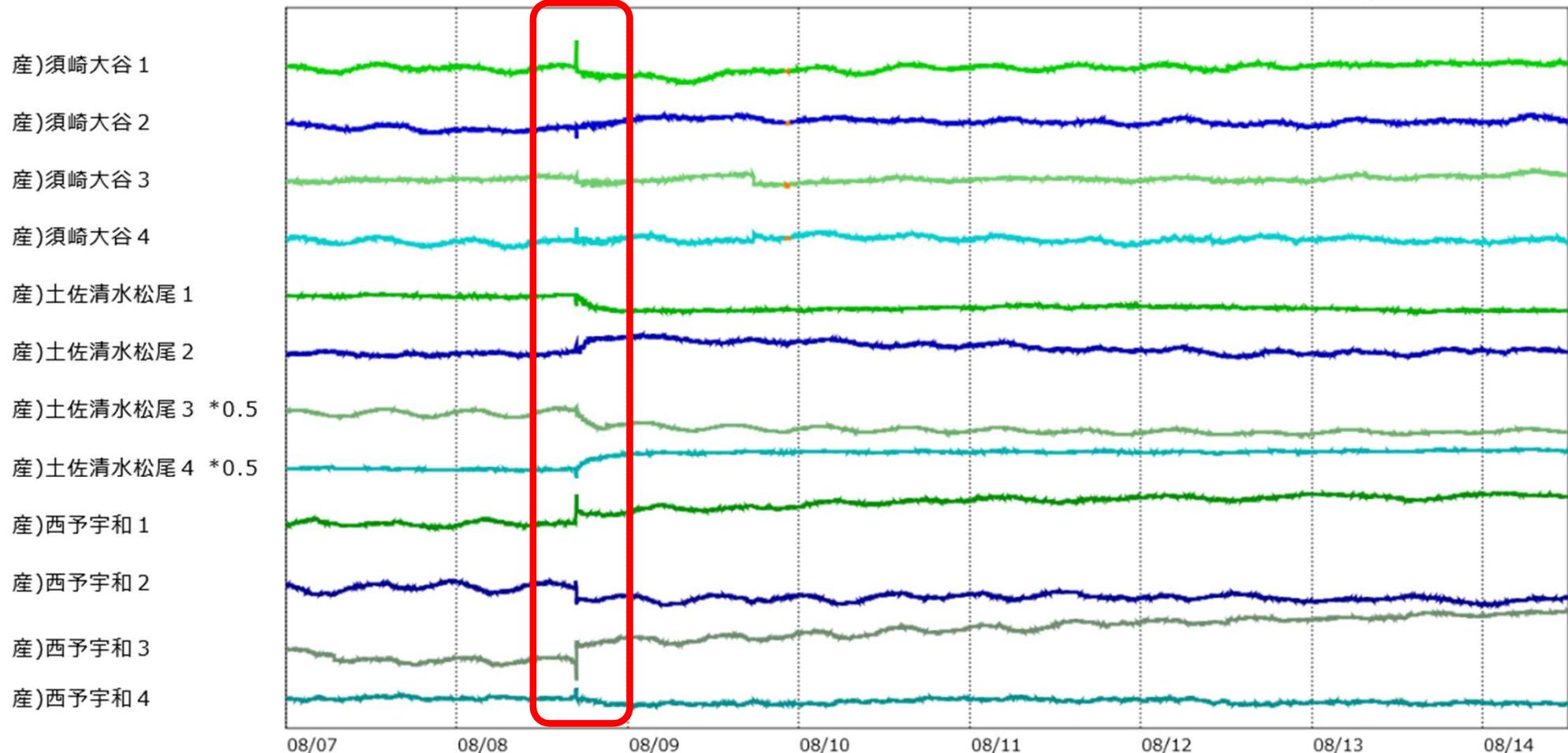
: 次頁にひずみ変化を掲載した観測点

# 8月14日12時00分現在のひずみ観測状況

## 地殻ひずみ変化(補正分値)

今回の地震  
に伴う変動

NEup 1.0E-07 strain



グラフの左横に「\*0.5」と示したひずみ変化は、  
振幅を0.5倍にして表示しています

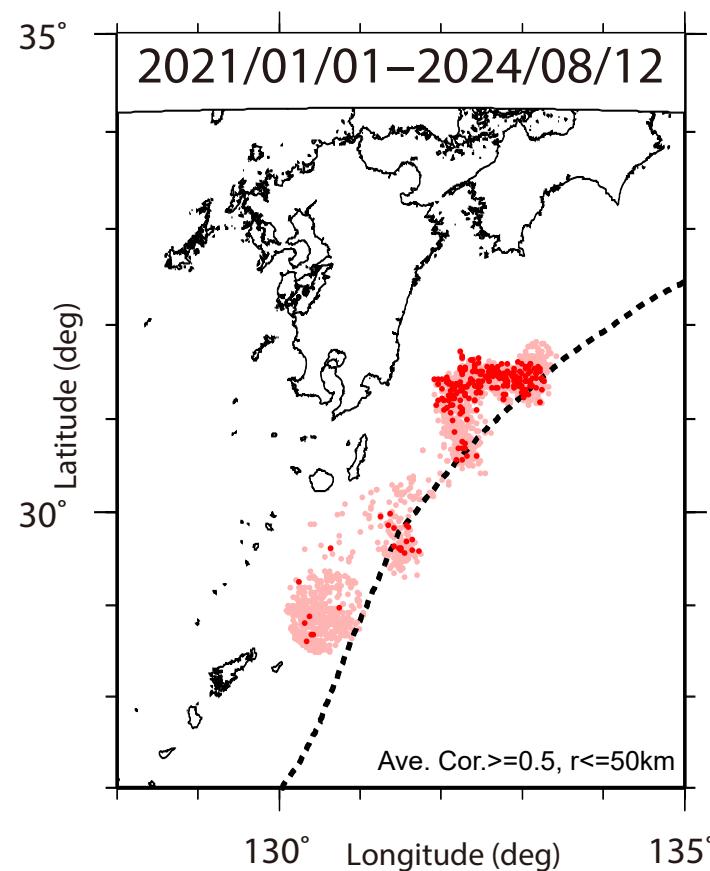
グラフの上向きの変化:伸びの変化  
グラフの下向きの変化:縮みの変化

須崎大谷、土佐清水松尾および西予宇和は産業技術総合研究所のひずみ計です

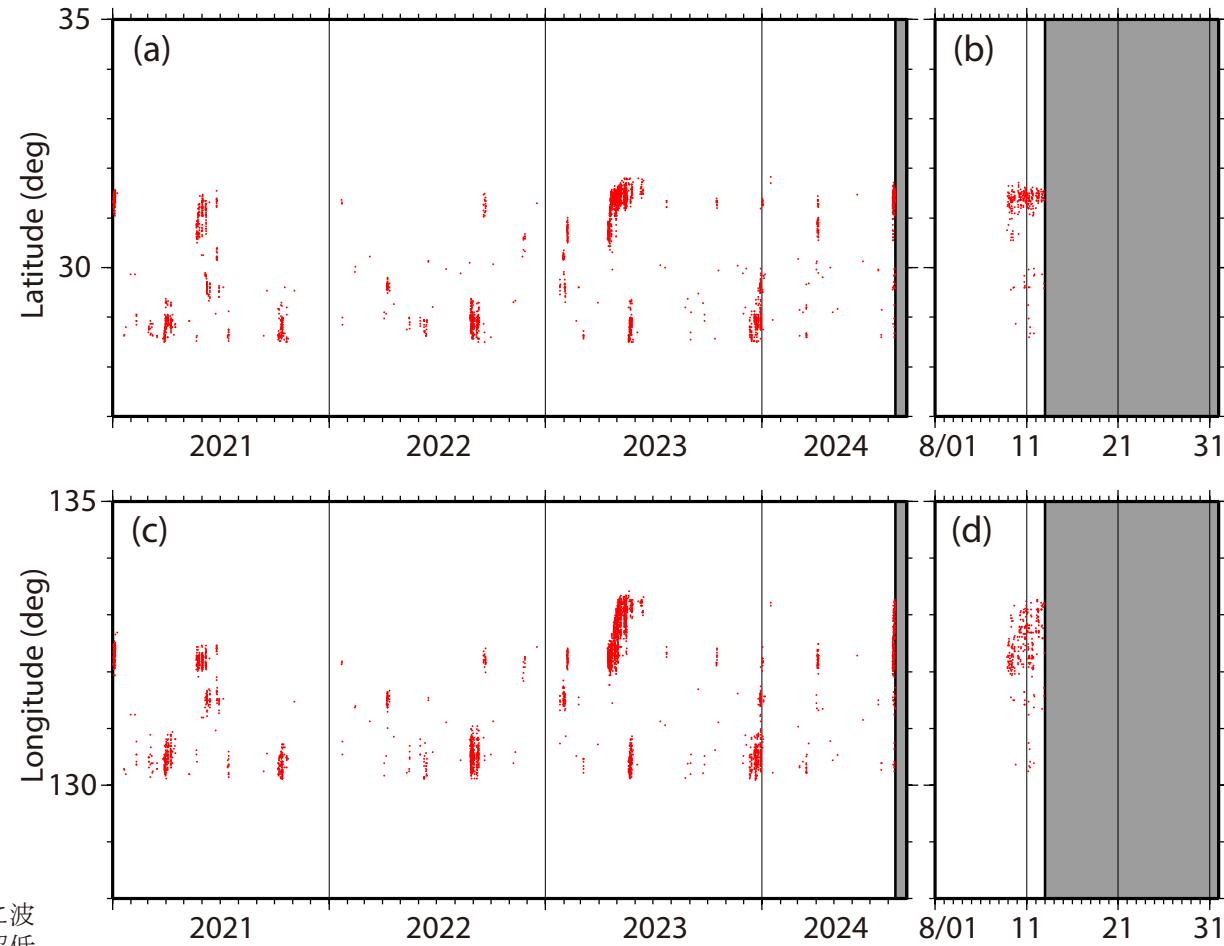
※マグニチュード7.1の地震に伴うステップ状の変化が観測されていますが、  
地震後に通常みられる変化以外は今のところ捉えられていません。

# 日向灘及びその周辺域における超低周波地震活動（2023年8月1-12日）

- 波形相関解析 [Asano et al. (2015)] によって既知の地震・超低周波地震の類似イベントを検出。
- 8月8日の地震以降、日向灘及びその周辺域で超低周波地震活動。
- 活動の比較的初期から東経133度付近においても活動。



第1図. 2021年1月1日から2024年8月12日までの期間内に波形相関解析 [Asano et al. (2015)] によって検出された超低周波イベントの震央分布。検出イベントを防災科研の手動または自動観測震源と照合して通常の地震を除去した後に、それ以外を超低周波イベントとして桃色（2024年7月31日以前）、および赤色（8月1日以後）の点でそれぞれ示す。

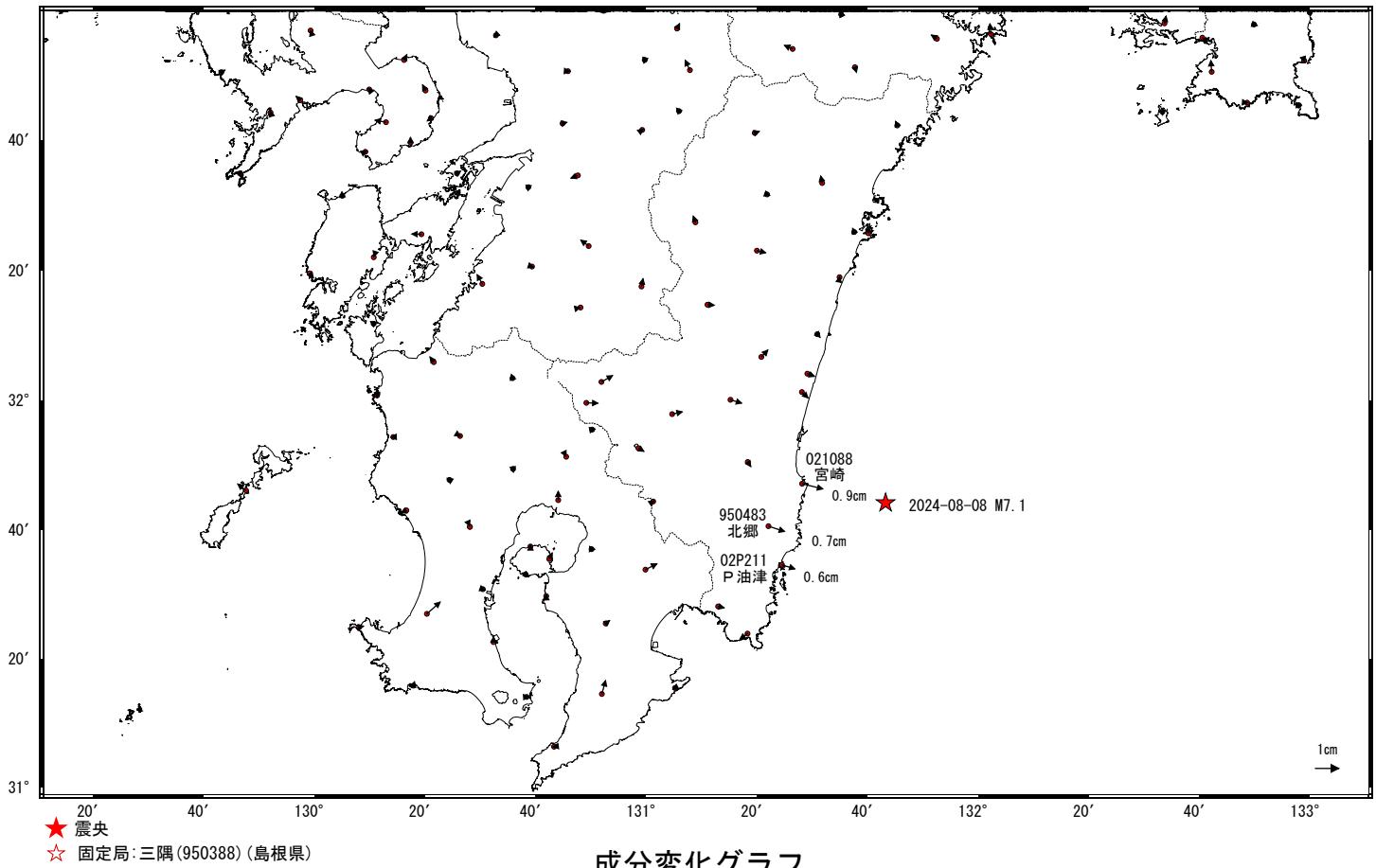


第2図. 第1図と同じ期間内に検出された超低周波イベントの時空間分布。超低周波イベントを赤色の点で示す。(a)および(b)に緯度分布の、(c)および(d)に経度分布の時間変化をそれぞれ示す。また、(a)および(c)に2021年1月1日以降、(b)および(d)には2024年8月1日以降の分布をそれぞれ示す。

## 日向灘の地震(8月8日 M7.1)後の観測データ (暫定)

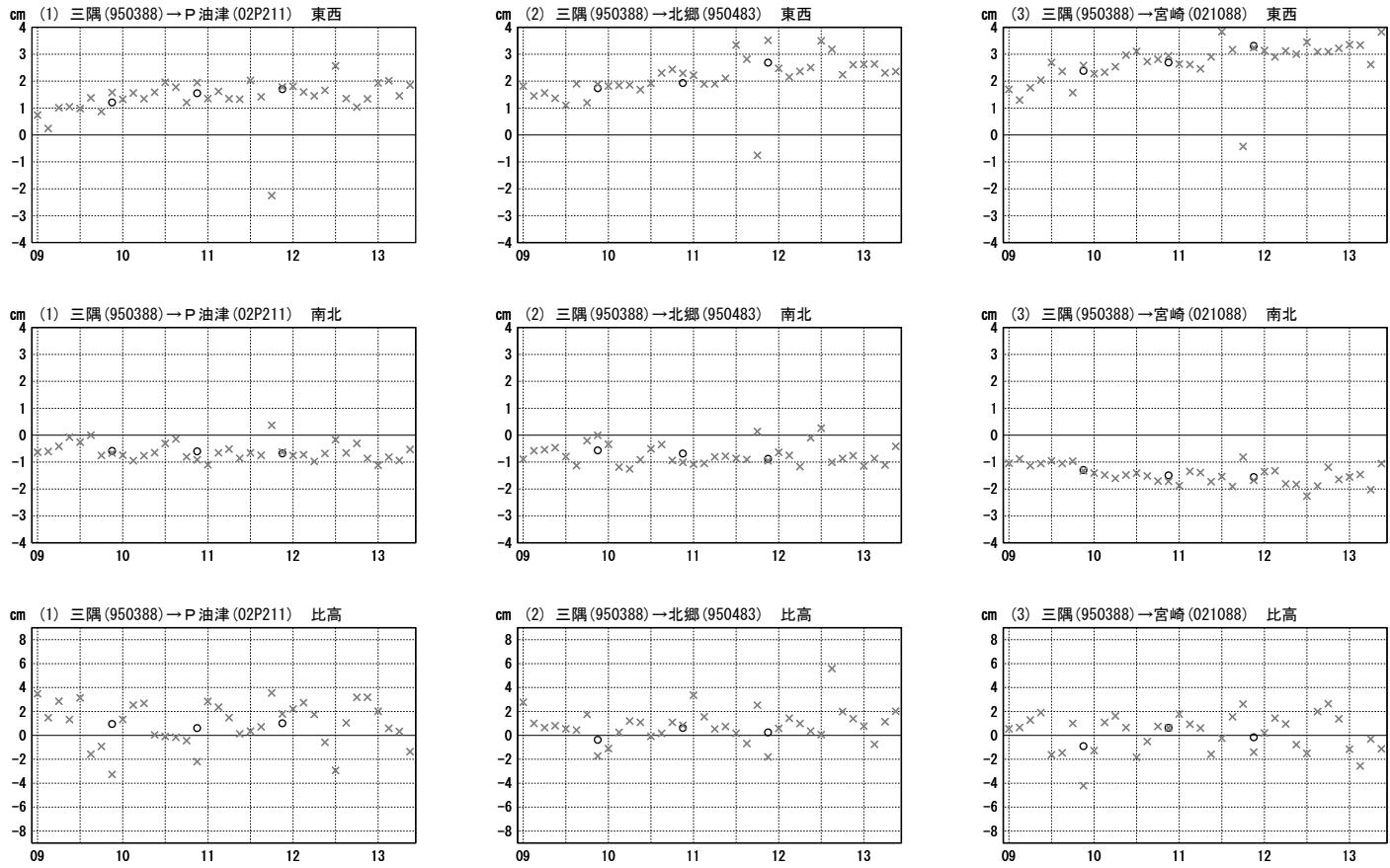
## 地殻変動(水平)

基準期間: 2024-08-09 09:00 ~ 2024-08-10 08:59 [R5: 速報解]  
 比較期間: 2024-08-13 00:00 ~ 2024-08-13 11:59 [Q5: 迅速解]



## 成分変化グラフ

期間: 2024-08-09 ~ 2024-08-13 JST



○---[R5:速報解] ×---[Q5:迅速解]

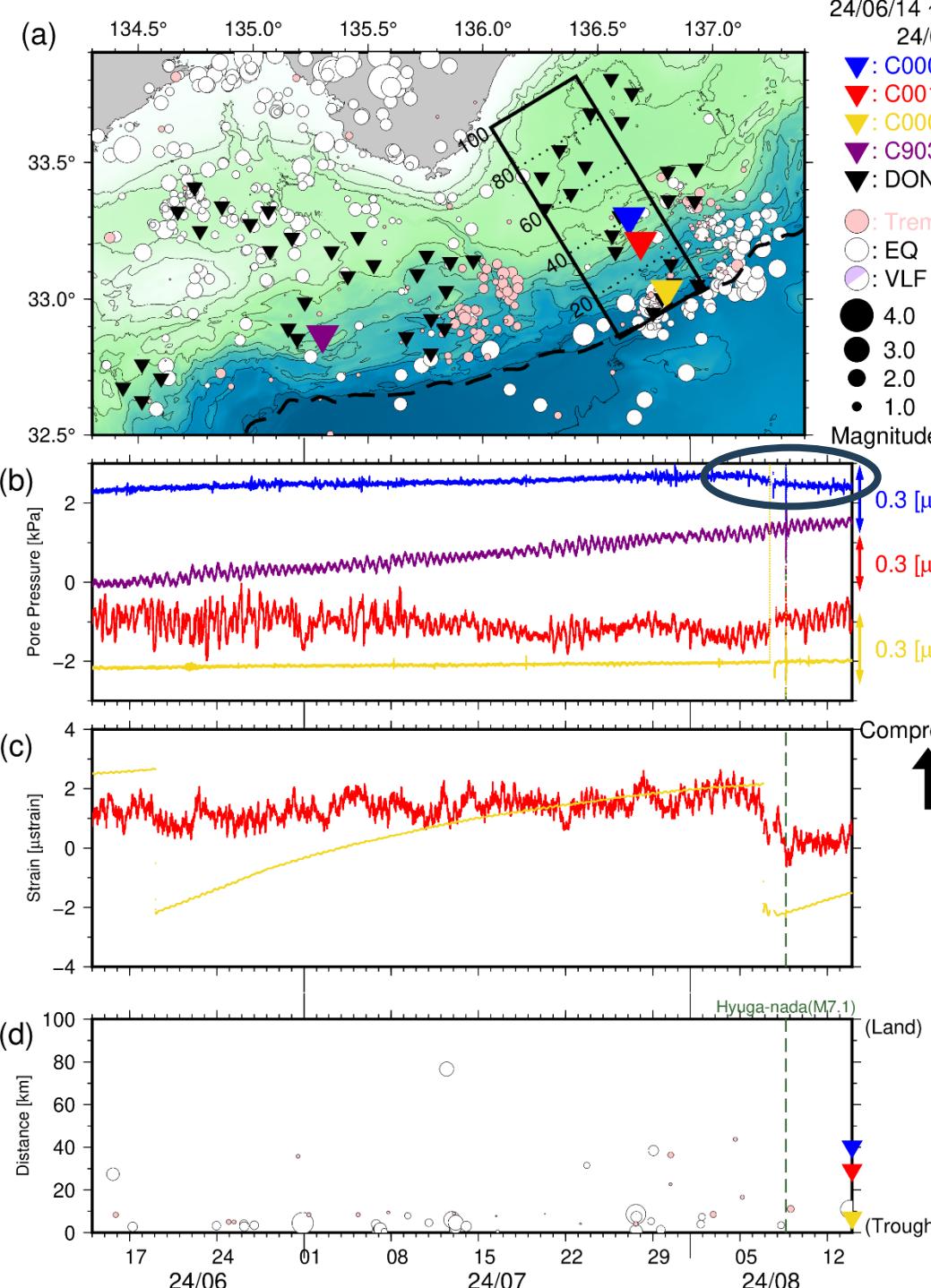
# 2024年8月5日頃から発生した間隙圧変化について(速報)

南海トラフ孔内(間隙水圧)観測による  
浅部ゆっくりすべりモニタリング

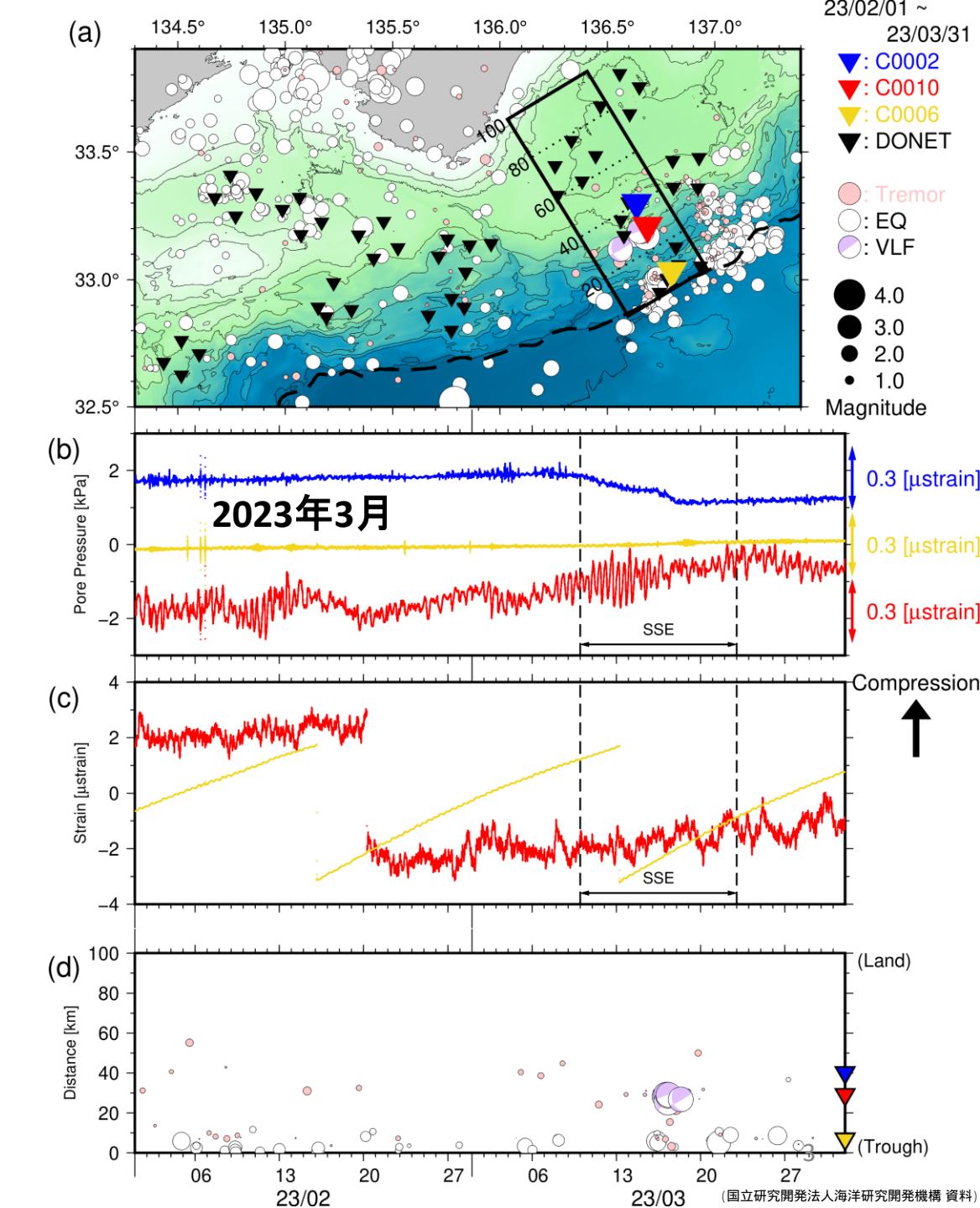
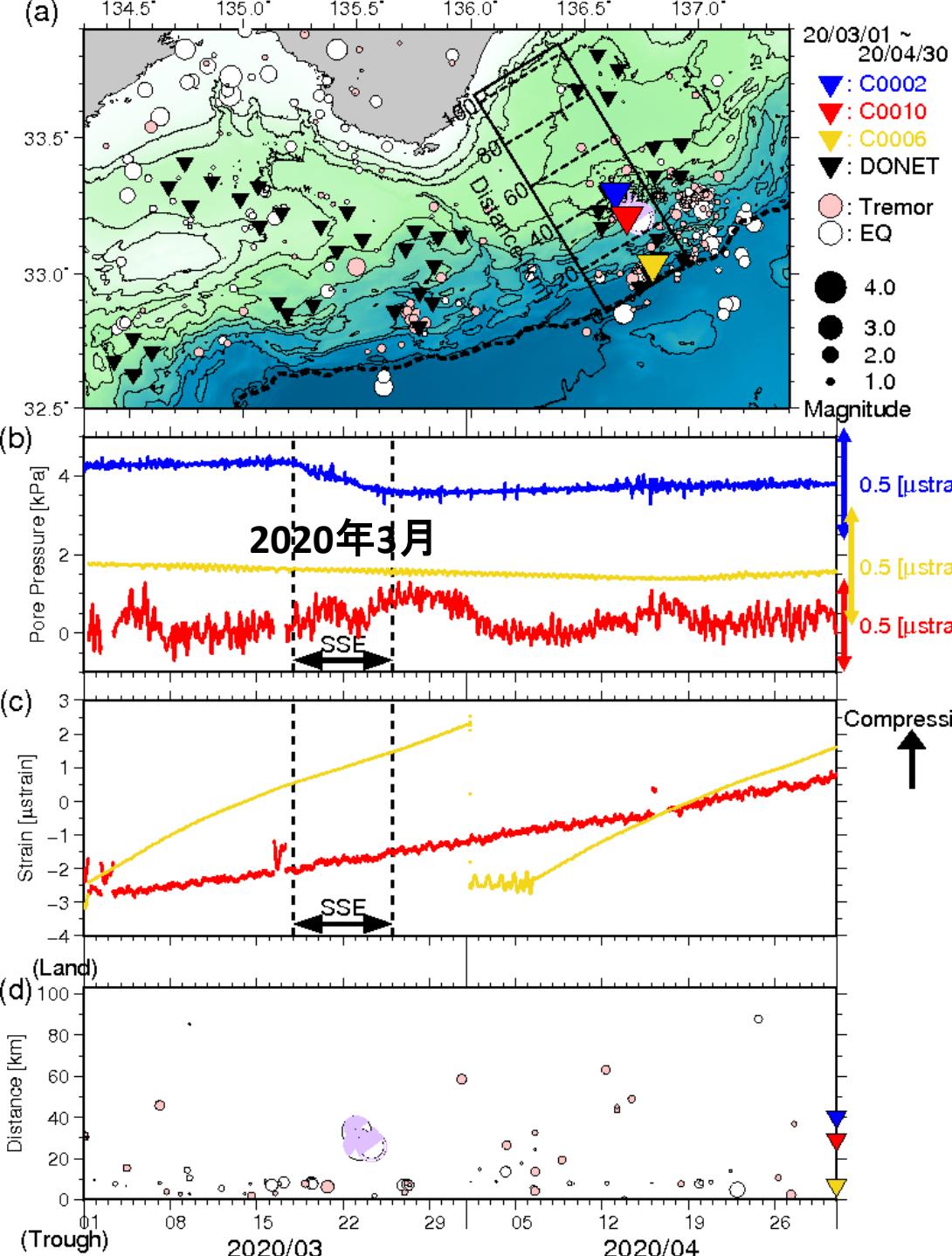
令和6年(2024年)8月14日  
国立研究開発法人 海洋研究開発機構



(国立研究開発法人海洋研究開発機構 資料)



- 【b: 孔内間隙圧変化】
  - C0002: 8月5日頃から膨張変化
  - C0010: 同時期に収縮変化(暫定)
  - C0006: 今の段階では有意な変化はない
  - C9038: 今の段階では有意な変化はない
- 【結論】:**
- 8月5日頃から熊野灘において、地殻変動に起因するとみられる孔内間隙水圧変化を観測。
  - 膨張変化は鈍化傾向にあるものの、現在も継続中と考えられるが、日向灘地震の影響は特にみられない
  - 【発生領域】: C0002 と C0010 の間(暫定)
  - 【過去の事例】: C0002の間隙圧変化は、2020年3月、2023年3月でも同様に観測されている(次のスライド)
  - (c)体積歪計: DONET-1保守作業前に電源を落としたため、再稼働後に初期ドリフトが発生
  - (d)地震活動:(a)の長方形枠内で発生した通常地震(○)と低周波微動(●)の震央分布を海溝軸からの距離の時系列として表示。



## 南海トラフ地震関連解説情報（第6号）

### ＊＊ 見出し ＊＊

8月8日16時43分頃に日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生しました。この地震の発生に伴って、南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられたことから、8月8日19時15分に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表しました。8日の地震の発生後、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すような地震活動や地殻変動は観測されていません。引き続き、政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

### ＊＊ 本文 ＊＊

8月8日16時43分頃に日向灘を震源とするマグニチュード7.1（モーメントマグニチュード7.0）の地震が発生しました。この地震の震源付近では、その後も地震活動は活発な状態が続いています。

8日16時から本日（14日）12時までに南海トラフ地震の想定震源域（8月8日の地震の震源域周辺を含む）で発生した震度1以上を観測した地震の回数（速報値）は次の通りです。

8日16時から24時まで	8回	（震度6弱：1回、震度2：2回、震度1：5回）
9日00時から24時まで	11回	（震度3：1回、震度2：2回、震度1：8回）
10日00時から24時まで	2回	（震度2：1回、震度1：1回）
11日00時から24時まで	2回	（震度3：1回、震度1：1回）
12日00時から24時まで	1回	（震度1：1回）
13日00時から24時まで	0回	
14日00時から12時まで	0回	

また、ひずみ観測点では、マグニチュード7.1の地震に伴うステップ状の変化が観測されていますが、地震後に通常みられる変化以外は今のところ観測されていません。紀伊半島及び伊勢湾の深部低周波地震（微動）活動に伴う変化が付近のひずみ計等で観測されていますが、従来からも繰り返し観測されてきた現象です。8月8日21時頃から、日向灘及び九州地方南東沖で浅部超低周波地震を観測しています。この現象は従来からも繰り返し観測されてきた現象ですが、発生頻度・規模等発生様式については今後も観測・研究が必要です。また、8日の地震発生後、宮崎県南部を中心に、地震後の余効変動と考えられる地殻変動を観測しています。余効変動自体はM7クラス以上の地震が発生すると観測されるのですが、今回の余効変動は、そのような地震後に観測される通常の余効変動の範囲内と考えられます。なお、地震直後に余効変動のメカニズムを見極めることは困難であり、ある程度の期間、観測を続ける必要があります。

そのほか、8月5日頃から、紀伊半島沖で地殻変動に起因するとみられる孔内間隙水圧の変化を観測しています。この現象は従来からも繰り返し観測されてきた現象です。

このように、8日の地震の発生後、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すような地震活動や地殻変動は観測されていません。

8月8日の地震と南海トラフ地震との関連性について検討した結果、南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられたことから、8月8日19時15分に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表しました。

政府では、南海トラフ地震防災対策推進地域に対して、8日の地震発生から1週間、日頃からの地震への備えの再確認や、揺れを感じたら直ちに避難できる態勢をとるよう呼びかけています。引き続き、政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

気象庁では、引き続き注意深く南海トラフ沿いの地殻活動の推移を監視します。

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるマグニチュードです。気象庁が地震情報等で、お知らせしているマグニチュードとは異なる値になる場合

があります。

\* \* 次回発表予定 \* \*

今後も、「南海トラフ地震関連解説情報」で地殻活動の状況等を発表します。次回の情報発表は、15日17時00分頃を予定しています。

なお、新たな変化を観測した場合には随時発表します。

\* \* (参考) 南海トラフ地震に関する情報の種類 \* \*

【南海トラフ地震臨時情報】

情報発表条件 :

- 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
- 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合

情報名に付記するキーワード :

- 「調査中」 下記のいずれかにより臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合
    - ・監視領域内※1でマグニチュード6.8以上の地震※2が発生
    - ・1カ所以上のひずみ計での有意な変化と共に、他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化が観測され、想定震源域内のプレート境界で通常と異なるゆっくりすべりが発生している可能性がある場合など、ひずみ計で南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測
    - ・その他、想定震源域内のプレート境界の固着状態の変化を示す可能性のある現象が観測される等、南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測
  - 「巨大地震警戒」 想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード8.0以上の地震が発生したと評価した場合
  - 「巨大地震注意」
    - ・監視領域内※1において、モーメントマグニチュード7.0以上の地震※2が発生したと評価した場合（巨大地震警戒に該当する場合は除く）
    - ・想定震源域内のプレート境界において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合
  - 「調査終了」 （巨大地震警戒）、（巨大地震注意）のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合
- ※1 南海トラフの想定震源域及び想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲  
※2 太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く

【南海トラフ地震関連解説情報】

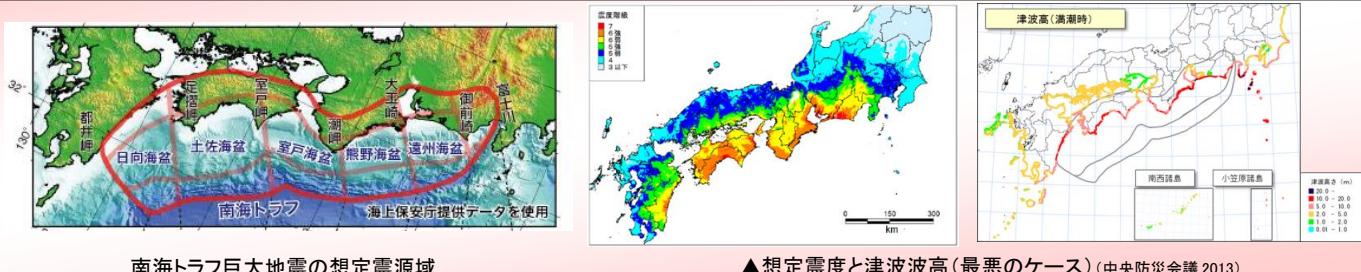
情報発表条件 :

- 観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合
- 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（ただし南海トラフ地震臨時情報を発表する場合を除く）
- ※すでに必要な防災対応がとられている際は、調査を開始した旨や調査結果を南海トラフ地震関連解説情報で発表する場合があります。

# (参考)南海トラフ地震臨時情報

## 南海トラフ地震

- 駿河湾から日向灘沖までのプレート境界を震源とする大規模地震
- 概ね100~150年間隔で繰り返し発生
- 前回の地震発生(1946年)から約80年が経過し、次の地震発生の切迫性が懸念



## 南海トラフ地震臨時情報

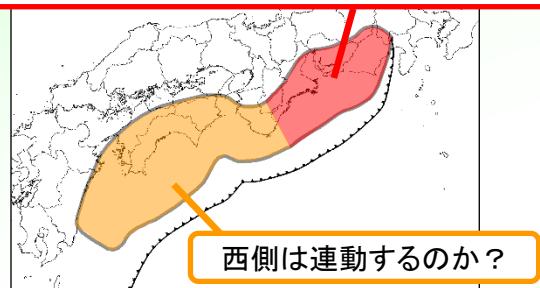
南海トラフ沿いで発生した異常な現象を観測した場合等に気象庁が発表

南海トラフ地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まっていると評価され、南海トラフ地震臨時情報が発表される3つのケース

### 【M8級の地震発生】

南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生した場合

南海トラフ東側で大規模地震(M8クラス)が発生

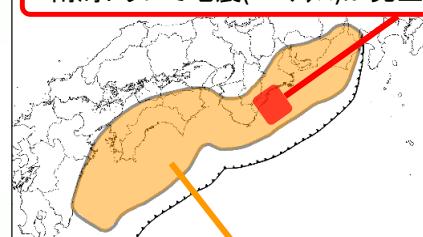


南海トラフ地震臨時情報  
(巨大地震警戒) を発表

### 【M7級の地震発生】

南海トラフ地震の想定震源域及びその周辺においてM7.0以上の地震が発生した場合  
(M8.0以上のプレート境界地震の場合を除く)

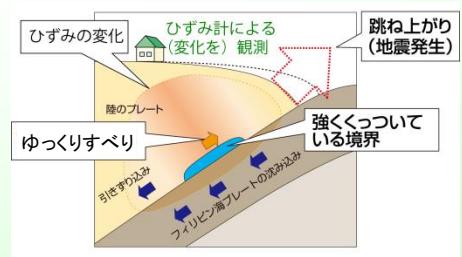
南海トラフで地震(M7クラス)が発生



南海トラフの大規模地震の前震か?

### 【ゆっくりすべり発生】

ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合



南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震注意) を発表

## 防災対応

最も警戒する期間は1週間を基本

地震発生後は明らかに避難が完了できない地域の住民は避難等

その後さらに1週間、M7級の地震発生時の防災対応を実施。

最も警戒する期間は1週間を基本

必要に応じて自主的に避難を実施することも含め日頃からの地震への備えを再確認する等、警戒レベルを上げる

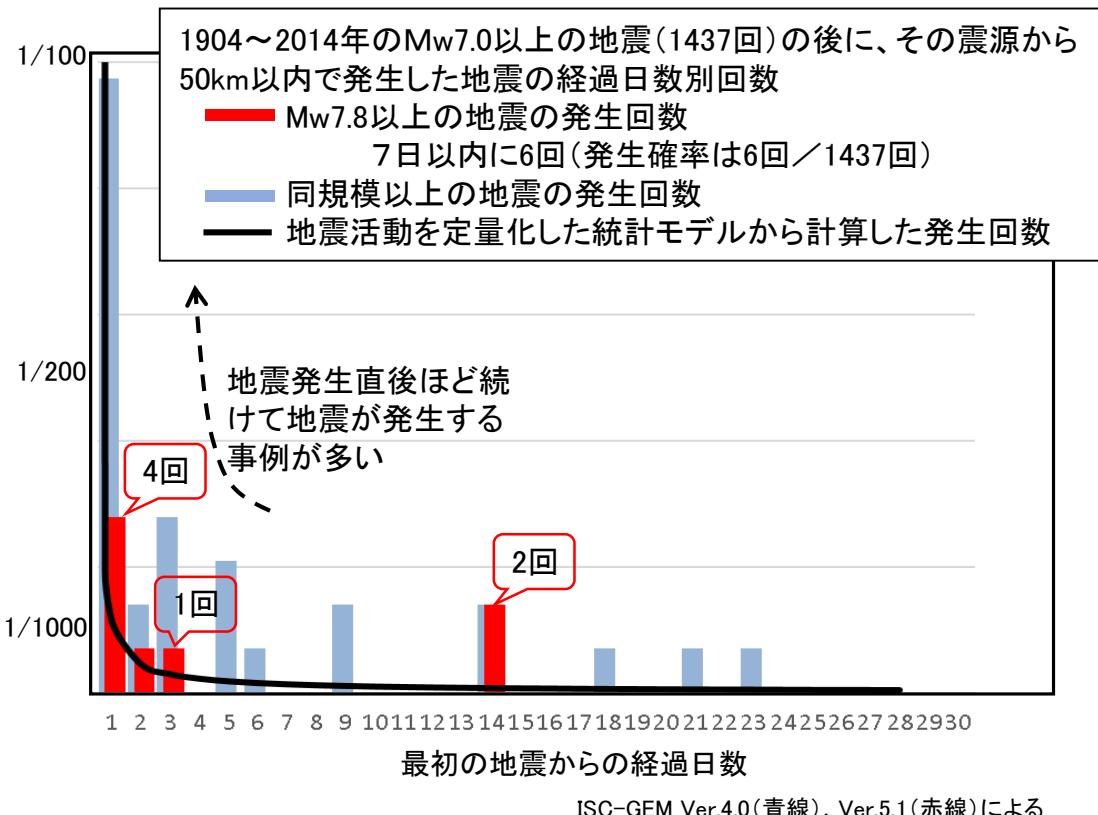
最も警戒する期間は、すべりの変化が収まり、変化していた期間と概ね同程度の期間

日頃からの地震への備えを再確認する等、警戒レベルを上げる

※Mはモーメントマグニチュードを表す。これは、岩盤のずれの規模(ずれ動いた部分の面積×ずれた量×岩石の硬さ)をもとにして計算したマグニチュードで、その値を求めるには高性能の地震計のデータを使った複雑な計算が必要なため、地震発生直後迅速に計算することは困難である。

# (参考) 地震が続けて発生した事例

## (Mw7.0以上の地震発生後にMw8クラス以上の地震が発生した世界の事例)

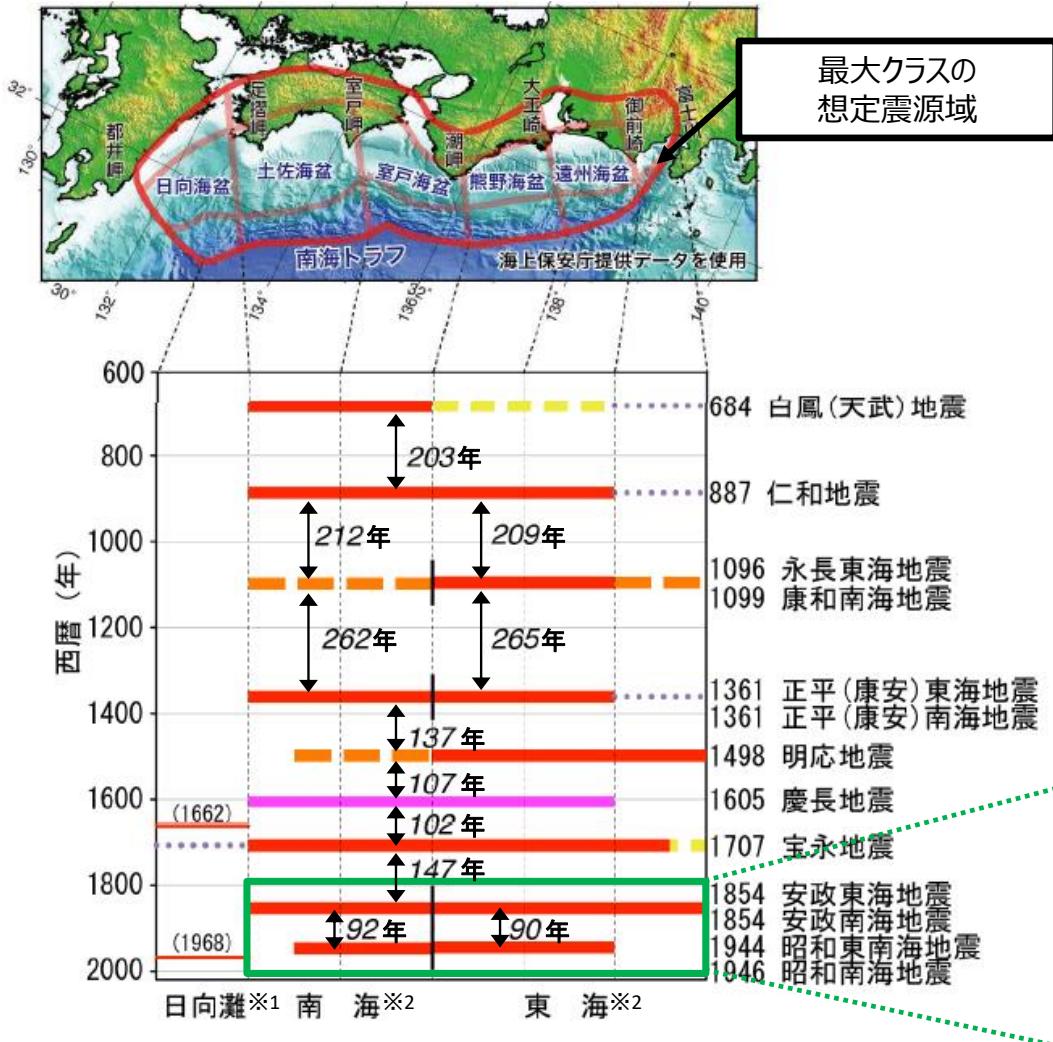


Mw7.0以上の地震発生後、7日以内にMw8クラス以上(Mw7.8以上)の大規模地震が発生するのは、数百回に1回程度です。異常な現象が観測される前の状況<sup>(注)</sup>に比べて数倍高くなっています。

(注)30年以内に70～80%の発生可能性があるとされる状況です。南海トラフ沿いの地域において「30年以内に70～80%」の可能性でM8～9クラスの地震が発生するという確率は、7日以内に換算すると概ね千回に1回程度となります。これと、世界における続けて発生した地震の頻度を比較しています。

- 地震が続けて発生したこれらの事例から、南海トラフ地震の想定震源域では、新たな大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。
- 続けて地震が発生する可能性は、先に発生した地震が起こった直後ほど高く、時間を経るにつれて低くなっていますが、ゼロになるわけではありません。

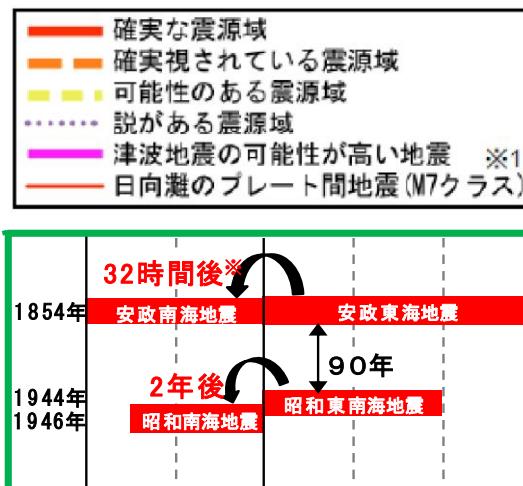
# (参考)過去に発生した南海トラフ地震



## ●過去に南海トラフで発生した巨大地震の規模

地震名称	地震本部による	内閣府による
宝永地震	—	8.9
安政東海地震	—	8.6
安政南海地震	—	8.7
昭和東南海地震	8.1 ~ 8.2	8.2
昭和南海地震	8.2 ~ 8.5	8.4

注)地震の規模はモーメントマグニチュード(Mw)



※最近の調査では、30時間後との結果も報告されている。

※1 「日向灘のプレート間地震 (M7クラス)」として、現在知られているこの海域での最大規模の地震 (『地震活動総説』 (宇津, 1999) では、1662年の地震がM7.6、1968年の地震がM7.5) を記載しています。

※2 東海～南海には、現在知られている大規模地震 (『地震活動総説』 (宇津, 1999) では、正平 (康安) 東海地震以降の地震はいずれもM7.9以上) を記載しています。

※本資料は以下を基に作成しました。

「南海トラフの地震活動の長期評価 (第二版)」 (地震調査研究推進本部) [https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou\\_pdf/nankai\\_2.pdf](https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou_pdf/nankai_2.pdf)

「南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性について・別添資料」 (内閣府) [https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/tyosabukai\\_wg/pdf/h290825benten.pdf](https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/tyosabukai_wg/pdf/h290825benten.pdf)

「防災対応のための南海トラフ沿いの異常な現象に関する評価基準検討部会とりまとめ・別冊」 (内閣府) [https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taio\\_wg/pdf/h301225bessatsu\\_02.pdf](https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taio_wg/pdf/h301225bessatsu_02.pdf)